大正５年５月５日木藤精一郎創立

やまゆき会会報

平成 30 年４月号

例　会　報　告

中国山地（宍粟 50 山）：後山（1344.4m）・船木山（1334m）

2 月 4 日（日） 晴れ Ⓐ上級 D 担当:藤堂尚久 参加者 6 名

Ⓐ班、Ⓑ班と 2 班編成、計 9 名が参加、大阪駅桜橋口付近、レンタカー10 人乗り、早朝 6 時 15 分出発した。今回のポイントは ①宍粟 50 名山 №3後山(岡山県最高峰・兵庫県標高第3位)と№4船木山から鍋ヶ谷山(1253m)、駒の尾山(1280.5m)への縦走 ②スノーシュー・ワカン雪原山行 ③静寂の中の霧氷の森探索、稜線上の眺望。

担当の不手際、山行直前準備に手間取る、また雪深く駐車地が当初予定地よりかなり下の山麓になる、等が重なり大阪出発 4 時間後の登山開始となった。早々に全員がスノーシュー、ワカンを装着、標高 710m の登山口から主稜線まで距離約 2km、標高差約 620m、無雪期でも 2 時間かかる急登をまず登る。踏み跡はうっすらとある、多分担当が下見時つけたもの。この山域、春秋には結構人気があるが、雪深い冬季には登山者は少なく、コース見極め困難、にも拘わらず団体登山を実行するに後押しされたのは、正直言えば、某山岳会の山行記録であった。

登山口から沢沿いの急登を 800m 進み 2 ヶ所の渡渉地点を目指す。深い自然林の森では下見時には霧氷が幻想的な雰囲気を与えてくれたが、本日は天候穏やか、気温は上昇、惜しくもそれはならなかった。渡渉地点からさらに距離 600m の区間が一番の難路、ジグザグ道の急登であり、ゆっくりと着実にコースを外すことなく歩を進め、緩やかな支尾根南に出た所で遅い食事を短時間でとる。こののち北へ 1 時間で漸く主稜線に合流して進路を右に、すぐ船木山頂上に到着した。積雪は 50cm 程度、四方眺望は良好、微風、雪道問題なし、東方間近に見える後山へは 20 分で行けるが、想定外の長時間の山行、本日はこの地点から下山することとした。登りは苦労したものの、下りは往路をスムーズに 2 時間で駐車地へと戻ってきた。Ⓑ班がお出迎え、30 分ほど前の到着であったとのことだった。登山開始が 2 時間早ければ、本日コンディションなら当初予定通り、後山から、なだらかに連なる山々を前方に眺めながら駒の尾山への縦走を楽しめたものをと残念でならない。一応の説明を…駒の尾山近くには頑丈で宿泊快適そうな避難小屋があり、頂上ではストーンサークルのような独特の景観が見られる。また下山は、激下りの西側尾根及び林道歩きを経て登山口に戻ることになる。

結果、反省点多い山行であったが、次の機会には満足いくものとしたい。近畿内での雪山登山で魅力ある山域がまだ多数ある。雪原山行、これからも発掘していきたいと思っている。

コースタイム

美作市後山駐車地(9:35)～船木山・後山登山口(10:15～10:35)～第一渡渉地点(11:40)～主稜線迄 600m 地点(12:55～13:15)～船木山(14:20～14:30)～第一渡渉地点(15:25)～登山口(16:00)～駐車地(16:30)

2 月 4 日(日) 晴 Ⓑ中級 D 担当:北川隆史 参加者 3 名

船木山登山口で、ワカンを装着し、藤堂さん達 A 班の後に続いて出発する。針葉樹林帯を抜けると間もなく山道(船木山遊歩道)は沢沿いに登るようになる。一つ目の渡渉ポイントで左岸から右岸へ渡る。ちょっとした段差を登る個所があり、だんだんと A 班との間隔が開いていくが、無理をせずゆっくりペースで登る。トレックは第 2 渡渉点で右岸から左岸に渡って沢から離れて山腹を登っていくが、我々は渡渉した辺りで昼食休憩を取ることにする。

昼食後、山腹をトラバースして登り始める。右が切れ落ちたトラバース道を慎重に進む。左折して谷の方へ戻るように登って高度を上げる。雪道は大きくジグザグに尾根上へ向かうが、2m 以上の段差を登る個所で雪が崩れて登るのに苦労する。「船木山山頂まで 1,000m」という大きな標識を過ぎて少し登ったあたりで 13 時となる。登山開始時に予め申し合わせていた下山開始時刻である。まだ尾根の肩まで到着しておらず残念だったが、方向転換して下山することにする。メンバーの一人のワカンに大きな氷玉が付いて滑りやすくなったりしたので、アイゼンに履き替えた。先ほど昼食休憩に使った大きな岩のあたりで集合写真を撮る。沢沿いの道に戻って快調に下降を続け、登山口に戻った。登山口からもアイゼンやワカンを付けたまま林道を下る。車をデポした分岐まで戻るとちょうと 16 時だった。しばらくして船木山山頂まで登った A 班が戻ってきた。皆さん、お疲れ様でした。

CL の藤堂さんには計画立案、往復の車の運転などたいへんご苦労をいただきました。改めて感謝申し上げます。

コースタイム

船木山登山口 (10:15～10:35)～第二渡渉点(11:53～12:20)～船木山山頂まで 1,000m の標識(12:50)～下山開始地点(13:00)～船木山登山口(15:25)～駐車地(16:00)

神戸八社巡り（阪急・神戸三宮駅～JR 神戸駅）　入門A

2 月 4 日（日） 晴れ 担当：中川輝夫 参加者 26 名

節分の翌日、寒波にかかわらず、集合場所の阪急神戸三宮駅に 26 人もの信心深い方々が参集。お参りする八神社の地図と神社の朱印帳を参加者に配布。古来「節分の日」にお参りすると厄除けの効果大とのこと。八社は昔、各村の鎮守さんだった。八神社の親神社の生田神社で、八神社とお参り要領を説明したが参加人数が多く各自がお参りしていたら時間通り歩けないのでお参り作法の簡略化も説明した。例会担当者が各神社で鈴を鳴らし賽銭を賽銭箱に入れた後、参加者は例会担当の 2 礼 2 拍手 1 礼と同時にお参りすることとした。

生田神社、一宮（いちのみや）神社、二宮（にのみや）神社と順調にお参り後、JR三ノ宮駅のガード下を通過、三宮（さんのみや）神社へ。三宮駅周辺は皆さま良くご存じだが、三宮神社がどこにあるのか（？）知らないようだ！八社とも小さな神社なので、素通りしているようだ。JR元町駅ガード下をくぐり、兵庫県庁を通過し四宮（よのみや）神社到着。隣りの生田文化会館でトイレ休憩。五宮（ごのみや）神社への途中、諏訪山児童公園で昼食休憩を取った。

昼食後、五宮神社は八社中最も素朴な風情なので、皆さんにお賽銭を奮発しましょうとお願いした！隣りの祥福寺（臨済宗）が立派なお寺なので、庭園を見学した。禅道場のようで、本堂、お賽銭箱などは無かった。宇治川沿いの立派な桜並木を過ぎ、八宮（はちのみや）神社へ。六宮神社は、小学校建設時に八宮神社に合祀されているので、八宮神社と同時参拝。近くに神戸文化ホールがあり、トイレ休憩を取った。本日の最終は七宮（しちのみや）神社で、疲れた脚を引きずりながら、JR神戸駅から国道2号線沿いを進み、ようやく七宮神社に到着した。お参り後同じ道を引き返し、JR神戸駅で解散した。

コースタイム

阪急神戸三宮駅(9:45)～生田神社(10:05)～一宮神社(10:20)～二宮神社(10:35)～三宮神社(11:00)～四宮神社(11:30)～諏訪山児童公園(11:45～12:15)～五宮神社(12:50)～八宮神社（六宮神社）(13:15)～七宮神社(14:00)～JR神戸線神戸駅(14:30)

高見山地：三峰山（△ 1235.2m）　中級 C

2 月 11 日（日） 晴れ 担当：吉井利一 参加者 13 名

初めて例会の担当をさせて頂きました。参加者があまりたくさんでも大変、少なくても寂しい。

そんな気持ちで当日の朝を迎えた。この時期としては珍しく、前日にたっぷりと雨が降った。霧氷は見られるのかな？近鉄大阪線榛原駅では団体割引適用可の、ほどよい人数と思われる13 名に集まって頂いた。殆どの方が顔見知りでほっとする。登山口行の霧氷号は、もう既に 7 台が出発しているとの事。コース説明、注意事項をバスの中で済ませ、約1時間で登山口に到着した。各々の自己紹介とストレッチ、歩行順を決めて10時過ぎ、標高560m地点からスタート。30 分位、登り尾コースの雪解け道を歩き、休憩小屋でアイゼン装着とカロリー・水分補給を行った。約 1 時間 20 分の登りで 40 分位毎に休憩をとり、三畝峠辺りで昼食にした。

出発時には曇っていた天気も、雲が切れて真っ青な空と、強い日差しが照り付け、少し風は強かったものの 20 分程で出発、三峰山一等三角点ピークに向かう。この辺りまで来ると見事な霧氷のトンネル、暫し写真タイムをとり景色を楽しんだ。山頂は北側が開け大洞山などの、室生の山々が見渡せた。南に少し下り八丁平からも遠く台高の山々が一望出来た。避難小屋で一息入れて、下りに備えアイゼンの締め具合を各自確認して、急坂で九十九折の不動滝コースを下山した。不動滝は落差約 15mで滝の両側は完全に氷瀑となっていて、この時期ならではの景色を堪能した。みつえ青少年旅行村バス停まで戻り、ミーティングとクーリングダウンをして15時30分発臨時バスに乗り込み解散とした。

全員の協力のお陰様で、トラブルもなく初例会を務めさせて頂き感謝いたします。

コースタイム

みつえ青少年旅行村(10:10)～休憩小屋(11:00)～三畝峠・昼食(12:20～12:40)～三峰山(13:00)～八丁平(13:10)～三畝峠(13:20)～不動滝(14:30)～みつえ青少年旅行村(15:10)

京都北山：　貴船山（△ 699.4m）・二座　初級 C

2 月 17 日(土)曇時々吹雪　担当:菅生佳余子　参加者　25 名

どこか懐かしい風情が漂う叡山電車、冬枯れのモミジのトンネルを眺めていると二ノ瀬駅に着いた。小雨が降っているので駅舎の待合所を拝借し、出発準備やコース説明を終えて富士神社に移動する。

出発まもなく夜泣峠を通り過ぎてしまい後方からの声で引き返す。吹雪の中、滝谷峠分岐で一息入れ、樹林帯を歩いていると傾斜のあるアイスバーンに遭遇し上に雪が積もっていて歩き難い。思案して立ち止まったが、前方を見ると 20m ほど先は樹木がない。あそこ迄行けばきっと凍っていない筈！緩斜面なので心もち踵に力を入れ、前足で蹴らずに歩く様にと後続者に注意を促した。樋ノ水峠は昔の面影はなく、重なった倒木の上に雪が積もっていて足の置き場に躊躇したが、アイゼンを着けていないので踏み抜いても簡単に抜けた。10 分程で貴船山三角点（699.4m）に到着し昼食とする。

食後の休息時間を利用し、雪山が始めての方や、初心者を対象にアイゼンの講習を行う。実際に装着して歩いてみると、4 本爪と 6 本爪の違いや、爪の長さ、10 本 12 本と必要な理由も理解出来たようだ。二座目の貴船山へは、東の 690mピークから目指すことにし、方角を示し新雪の上を自由に歩いてくださいと述べる。新雪は想像以上に深く入り込むので驚きながらも楽しそうだった。大きなモミの木が見え、あっけなく貴船山（716m）に到着する。標識は無いが山頂が狭いのでピークと判断し易い。集合写真を撮り二座目の貴船山をあとにする。又もや吹雪いて来たので「見晴らし良好」と書かれた標識を見遣り、谷筋を下りていると、流木がうず高く重なって通せんぼ！迂回するしかないが、雪交じりの「草付き」は軟らかくて崩れるのでロープを張り、藤堂さんと、前田さんの助力を得て 5 分もかからず安全に通過した。

樋ノ水峠分岐を過ぎると、岩の露出が目だって来たのでアイゼンを外す。足取りは軽く、「こんな物を一日中足に着けて歩いていたら、そりゃ～疲れるわね」と声がした。三角点までアイゼンを使わなかった理由を、今にして納得されたようだ。また困難に遭遇しても簡単な用具と助力があれば、初心者にも乗り越えることが出来ること、登山は最終下山地が目的地と考え、極力体力の消耗を抑え最後まで温存しなければならいこと、メンバーシップの大切さ等、例会委員の方々にも学んでいただけたと思う。担当にとっても学ぶことの多き雪山山行であった。小石が散乱する林道を慎重に下り、富士神社にて解散した。

コースタイム

叡山電鉄鞍馬線・二ノ瀬駅(9:37)～富士神社（9:46～9:54）～500mP（10:34～10:40）～大岩分岐(11:03～11:09)～滝谷峠分岐（11:33～11:37）～貴船山三角点(12:03～12:43)～新雪自由散策～貴船山716mP（13:03～13:07）～迂回場所（13:47）～滝谷峠分岐(13:56～14:02)～富士神社(15:00)

六甲山地：　六甲山　中級Ｃ

2 月 18 日（日） 晴れ 担当：山田昭則 参加者 14 名

天候は晴れ、寒さはそれほどでもないので山歩きを楽しめそうである。今日の例会は高野山の陣ヶ峰の予定であったが、昨年 10 月の台風の影響で南海高野線が不通のため、芦屋川～最高峰～有馬温泉の六甲横断コースに変更した。

阪急芦屋川駅にこのコースを知り尽くしている 14 名のメンバーが集まり準備体操とコースの概要を説明し歩き始めた。毎年5月の創立記念日の集いが行われる高座ノ滝で上着を一枚脱いで、ロックガーデンを登ると風もなく穏やかな大阪湾が一望である。積雪はなく凍結の心配もなさそうで、歩行時間を気にすることもなく、ゆっくりではあるが一定のペースで歩くようにし、適当に休憩を取りながら雨ヶ峠、本庄橋跡を過ぎ、七曲りの取り付きの住吉川の渡渉地点で昼食時間とした。

風がなく弱いながら陽射しがあるがじっとしていると冷えて手が冷たいです。食事の後なのでゆっくりと七曲りの登りを詰めていき、一軒茶屋の日陰のところは積雪があり凍って滑りやすいので、端っこを歩くなど滑らないよう気をつけて頂上を目指した。久しぶりの最高峰・一等三角点（931.3m）であるが北側にあった雑木林が伐採されており広く見渡せる展望を楽しんで、みんなで集合写真を撮って住吉道を下ることとした。すぐの日陰のところにも雪が踏み固められ凍っていたので気をつけて行き、途中から有馬稲荷神社へのルートに入り有馬温泉で解散とした。

コースタイム

阪急神戸線芦屋川駅(9:08)～高座ノ滝（9:36～9:42）～ロックガーデン～風吹岩（10:25～10:32）～雨ヶ峠（11:28～11:36）～住吉川渡渉地点（11:52～12:18）～七曲り～一軒茶屋（13:08～13:13）～六甲最高峰（13:22～13:31）～魚屋道（住吉道）～有馬稲荷神社～有馬温泉・解散（15:05）

六甲山地：　鬼ヶ島　上級Ｄ

2 月 25 日（日） 曇 担当：松川元信 参加者 7 名

神戸電鉄・有馬口駅前で、点呼の後今日の気象確認と読図を行う。気象庁の六甲山頂の予報は、終日曇天 11m前後の微風・気温1度でした。残念ながら期待した積雪・降雪は無く予告には上級Ｄとしていたランクを中級Ｃと当日きめました。読図のために今回ルートの地形図の

拡大版（A3 サイズ）を配布する。駅からは視認できない鬼ヶ島をコンパスと地形図を使い方向確認（132 度）し、逆に鬼ヶ島山頂からの有馬口駅方向（180 度逆の 312 度）を求めた。今回のルートは登山を本格的に始めたい人には、短時間で振幅の大きい7つのピークの登下降や、登山者が非常に少なくマイペースで歩行訓練や読図学習ができる適地の一つです。

登山口に向け出発する。水無川のサイドを遡行して鬼ヶ島登山口に到着する。先週の下見時にあった布切れの登山口表示が無くなっている。ここで改めて地形図で鬼ヶ島の方向を再確認（174 度）する。尾根に取り付き登り始めると、あの布切れの登山口表示がある。周辺の雑木林は伐採作業中で今日もチェンソーの音が近くで聞こえる。樹木は殆ど伐採されているため、樹林帯の原形の面影はない。踏跡とコンパスを確認しながら尾根を急登する。最初のピークの鬼ヶ島山頂（580m）に着き、コンパスで有馬口駅の方向（312 度）を確認後に集合写真を撮る。コルに下り水無山の尾根を登りかえして水無山頂（650m）から水無峠に下り高尾山へ登り返す。高尾山の広い山頂（739m）に着き昼食をとる。

後半は有馬三山へ向かうが道標は無く、東西に分岐する踏跡がある。地形図で東方向の湯槽谷山方向を確認し、高尾山との中間点にあるピーク№.4（無山名・120 度方向）の位置を確認し東進する。メンバーの松本さんにコンパスを頼りにして先導してもらう。ピーク№.4（750m）を踏み、登りかえすと裏六甲縦走路に出合う。縦走路を北方向に大きく曲がり有馬温泉を目指す。湯槽谷山に向かう尾根で極楽茶屋に向かう登山グループと対向する。今日出会った唯一の人たちでした。本日の最高峰の湯槽谷山（801m）で二回目の集合写真を撮る。長い尾根を下り峠から灰形山（619m）に到着する。山頂からの眺望は、西には午前中に登った鬼ヶ島の山並みが並行し、南東には六甲最高峰、東は六甲有馬ロープウェーが、北には有馬温泉街、落葉山の妙見寺のお堂が見える。最後のピークの落葉山に向かう。痩せ尾根を過ぎ落葉山（533m）に着き四等三角点を確認して、妙見寺のお堂で休息をとり有馬温泉のバスターミナルの近くの登山口で解散した。

読図は、登山開始前に地形図とコンパスを使いルート上の注意ポイント（ピーク、高圧線、川、分岐等）の角度を測り、予め地形図に記入しておくと道迷いは非常に少なくなると思います。

コースタイム

神戸電鉄・有馬口駅（9:05）～鬼ヶ島登山口（9:25）～鬼ヶ島（10:20）～水無山（10:50）～高尾山（11:20～11:50）～ピーク№.4（12:07）～湯槽谷山（12:15）～灰形山（13:18）～落葉山（14;00）～有馬温泉（14:30）